

土岐謙次 漆器展

捨てられないかたち

土岐謙次氏は漆工によるダイナミックな造形物で印象的な作家です。彼はそもそも液体であるという漆の物性に注目し、それをそのままの形態、つまり「流体」として表現します。結果その造形物は、航空機やレーシングカーのような機能を研ぎました工業デザインに自ずと含有される「美」の成分を抽出した、それ故に、風や草木や水の流れのような自然界の動体のもつ清冽な印象をも感じさせ、観る者を新しい自然観を伴う今日的な美の世界に誘います。

実際に、彼はCFRP(炭素繊維で補強された樹脂)。軽量かつ高剛性で、最新の航空機やスポーツカー等に使われている)やラピッドプロトタイピング(3DCGデータをもとに完全な機械制御で光硬化性樹脂をレーザーで硬化させる造形技術。通常型抜きができるような形状を簡単に造形できる)等の、工業デザインにおいても特に先端的な素材や造形技術に興味を持ち、これらを駆使することで漆工芸の可能性を拓げ、ひいては今日のアブライドアートのあり方を問いかけています。



本展では、彼は塗装を施す対象としてこれまでとは対照的にスーパー・マーケットでみられるスチロールトレイやパックといった、極めて日常的であり顧みられることのないものを見ています。なぜ彼はそこに着目したのでしょうか。実はこれらは、如何に低成本に、より省資源に、より軽量に作り、確実に中身を保護し、かつ商品として美しく見せなければならぬ、という切実な設計要件に最適に対応されたものであり、その意味でこれらもまた「機能を研ぎました工業デザイン」なのです。通常これらは、最小限の要素で中身(=商品)をディスプレイしている為、中身を取り出すと同時に魅力を失い、実際にも、また情感的にも「ゴミ」になってしまいます。が、時としてそこに簡潔な機能性に宿った「美」を感じてしまうことがあります。本展の作品はそんな彼の「捨てられないかたち」なのです。これらの作品は彼によって見いだされたかたちが、乾漆技法によって忠実に置き換えられることで形作られています。一見ゴミに見えてしまうかたちが、愛着の伴う質感を持つていること、このギャップこそが作品の面白さだと考えます。が、なぜ彼がこの技法を採ったのかを考えてみるのも面白いと思います。私は、彼があえてこの「伝統的な手法」を「見いだしたかたち」に適用し「日常に使える漆器」として発表することに「今日でも漆工芸の手法や美意識は美術館のためのオブジェではなく、道具としてダイレクトに現代の日常の生活にコミットできるはず」という彼のアブライドアートに対するスタンスを読み取ります。また同時に工業デザイナーとして、このことに強く共感を覚えます。

かつて工芸とデザインはとても密接だったと思います。かたや美術工芸と社会との関わりにおける機能不全、かたや工業デザイン(=大量生産)のもたらした環境負荷、と今日それぞれを取り巻く状況を顧みると、今、双方に求められている価値はそうかわらず、改めてそこに接点を持ち得るのではないかでしょうか?

勝又良宏 | 工業デザイナー

1. Surface from Wall,or Edge
漆/CFRP/2450×800×350mm/1998/©Taku Saiki

2. Latency-leaves #8
漆/RP光造形樹脂/297×246×210mm/2003/©Kenji Toki

3. 捨てられないかたち—国産若鶴もも肉(大)(中)(小)
鶴内のトレイの石膏型による脱活乾漆・漆仕上げ
195×120, 145, 170×30mm/2006/©Kenji Toki

4. 捨てられないかたち - Sainsbury's Organic Mango×4
イギリスのスーパーで購入したマンゴーのトレイの
石膏型による脱活乾漆・漆仕上げ
180×150×40mm/2006/©Kenji Toki

土岐謙次 漆器展
捨てられないかたち
2009年9月5日 | 土 | — 19日 | 土 |
会期中木曜休み 12:00 — 19:00

GALLERY



京都市下京区河原町四条下ル東側・寿ビル5F
(阪急百貨店より1つめの点滅信号南50m東側)
Phone 075-341-1501 Fax 075-341-1505
Kotobuki Bldg 5F,Kawaramachi, Shijo-sagaru,
Shimogyo-ku Kyoto 600-8018 JAPAN

Design | Toh Sasaki